

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

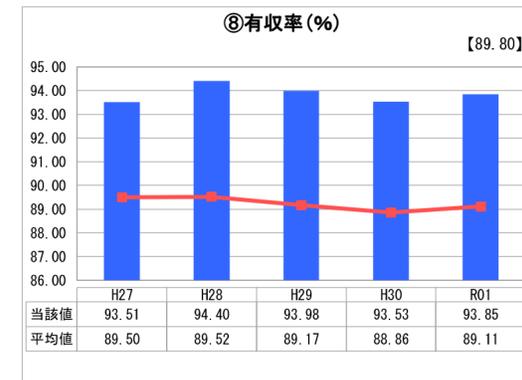
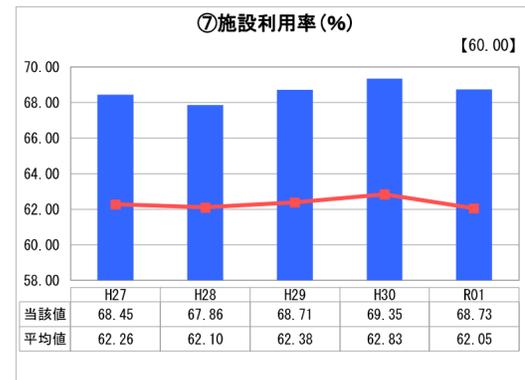
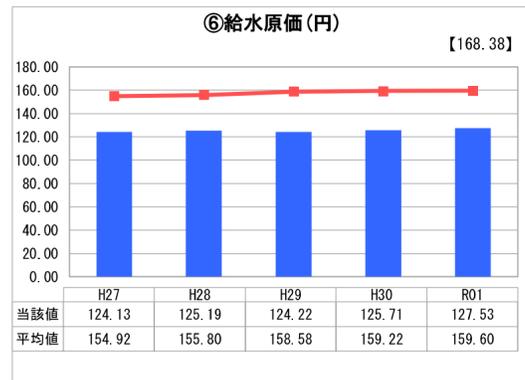
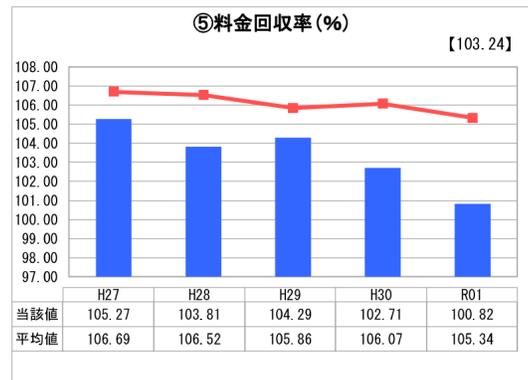
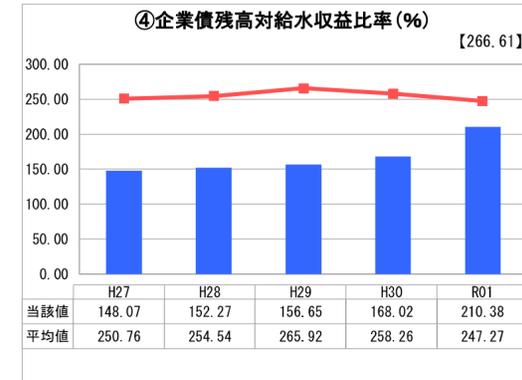
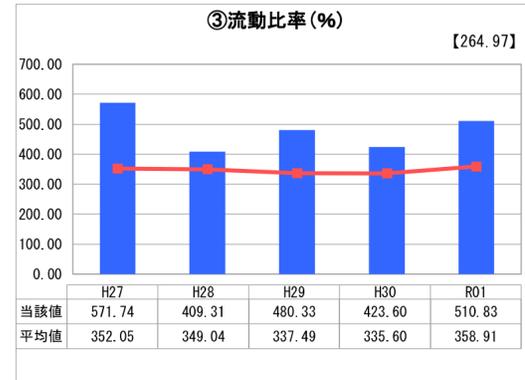
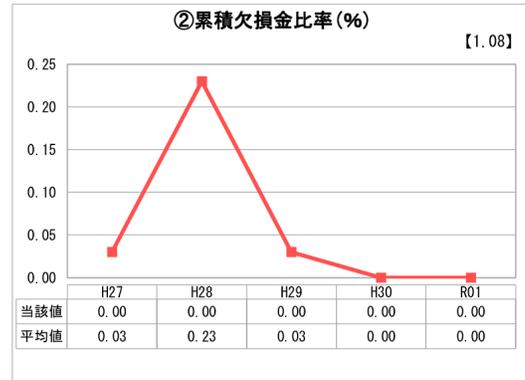
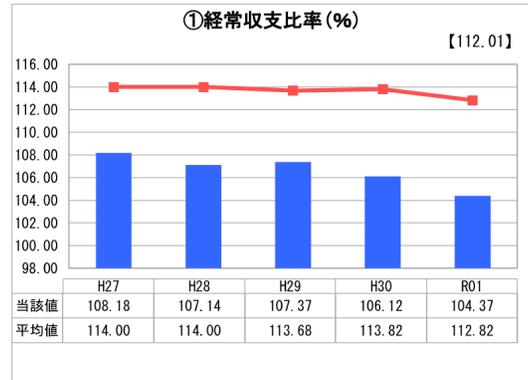
埼玉県 三郷市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	81.91	100.00	2,145	

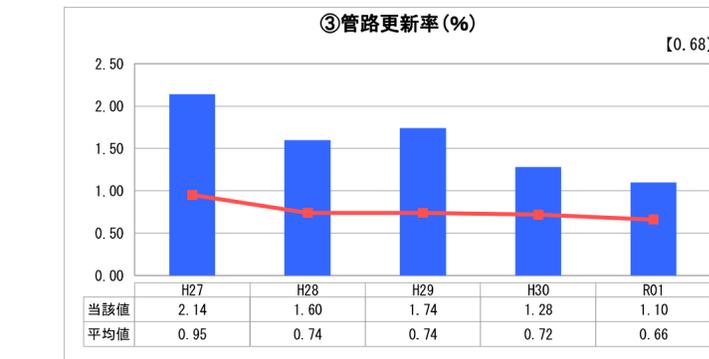
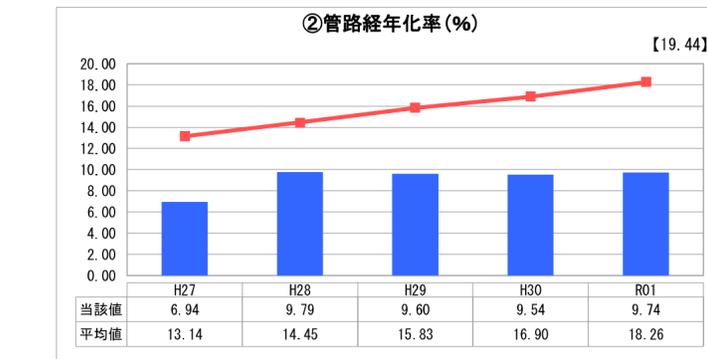
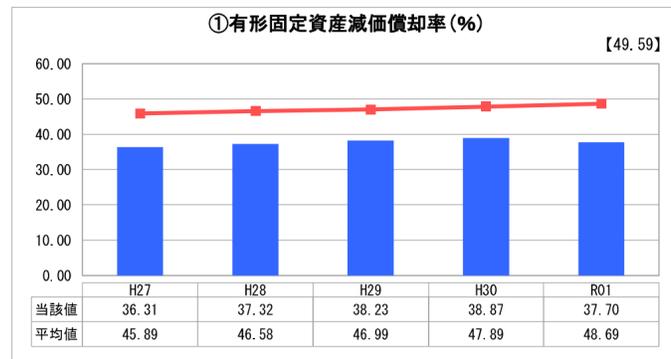
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
142,529	30.13	4,730.47
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
142,591	30.22	4,718.43

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【】 令和元年度全国平均	

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

1. 経営の健全性・効率性について  
 ①経常収支比率は、100%を上回っているが、近年は減少の傾向が続いている。類似団体との比較でも平均値を下回っており、事業の効率化等による収益性の向上が求められている。  
 ②流動比率は100%を超えており、短期的な債務に対する支払能力を有しており問題ない。  
 ③企業債残高対給水収益比率は、類似団体平均値を下回ってはいるが、施設の更新や耐震化事業の推進により、数値が大きく上昇している。今後は将来世代の負担が課題とならないよう、企業債残高を適正に管理していく必要がある。  
 ④料金回収率は、平成26年度の会計基準の見直しにより給水原価の算出方法が変更されたことで、現在は100%を上回る数値を維持している。しかし、これは算出方法が変更されたことによるものであり、数値は依然として減少傾向で、厳しい経営状態が続いている。  
 ⑤給水原価は、効率的な事業運営に努めてきたことなどから類似団体平均値を下回っているが、近年、施設更新に伴い減価償却費が増加傾向にあるため、増加の傾向が続いている。  
 ⑥施設利用率は、類似団体平均値を上回っており、施設を効率的に利用している。  
 ⑦有収率は、類似団体平均値を上回っているが、今後も引き続き老朽管の布設替えの推進や漏水調査を実施すること等により、有収率のさらなる向上に努めていく必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却費、②管路経年化率については、施設の更新を積極的に実施してきたことにより、類似団体平均値を下回っている。しかしながら、今後法定耐用年数を迎える資産も未だ多くあり、管路や浄水場といった施設の老朽化は着実に進行している。今後も計画的な施設の更新に努めたい。  
 ③管路更新率は、類似団体平均値を上回っているが、石綿セメント管や老朽管など早急に更新が必要な管路があるため、財政状況を勘案し、計画的に更新を進めていく必要がある。

### 全体総括

各指標の値を類似団体と比較すると、現時点では比較的良好な運営状況を維持できていると言える。しかしながら、「経常収支比率」や「企業債残高対給水収益比率」の動向は、経営状況の確かな悪化を示唆しており、今後必要となる施設の更新に対しても、財源の確保が十分とは言えない状況である。

今後は、現在改定作業中の「三郷市水道事業基本計画」に基づき、長期的な視野に立ち、料金や分担金の改定を含めた財源確保策及び経費の削減を検討する必要がある。

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

埼玉県 三郷市

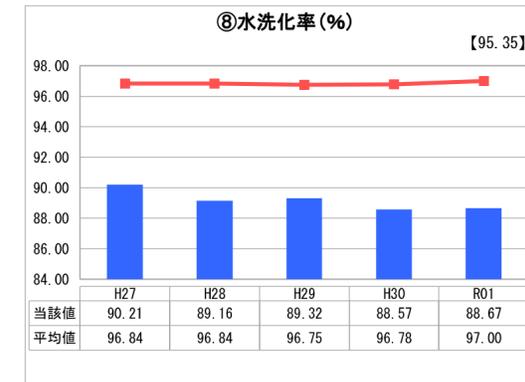
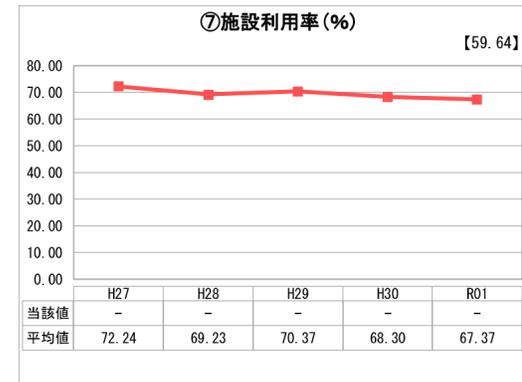
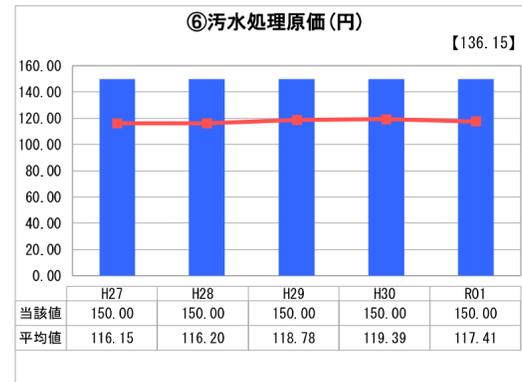
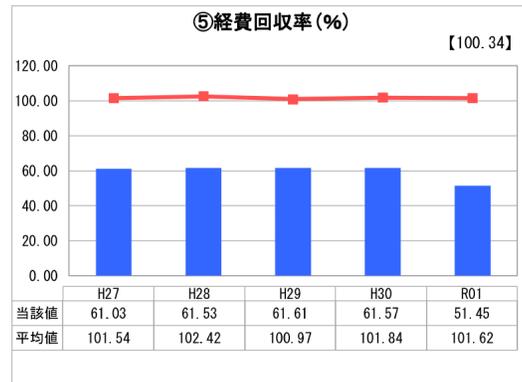
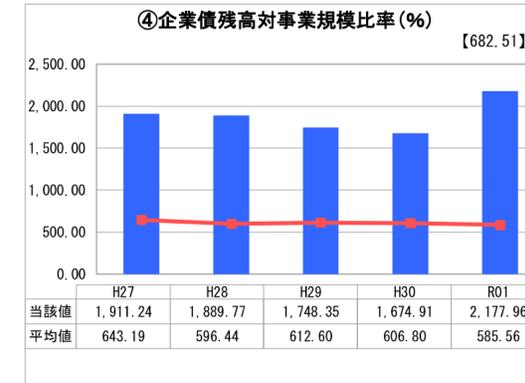
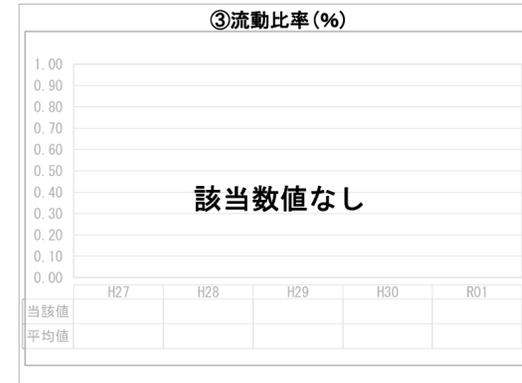
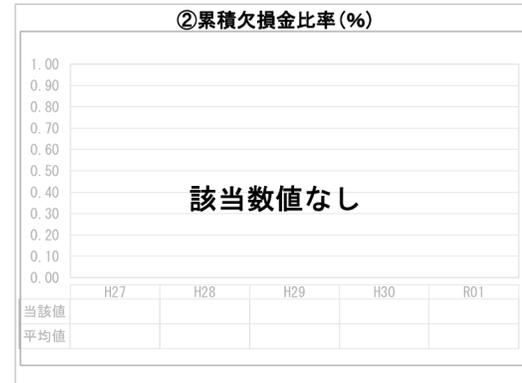
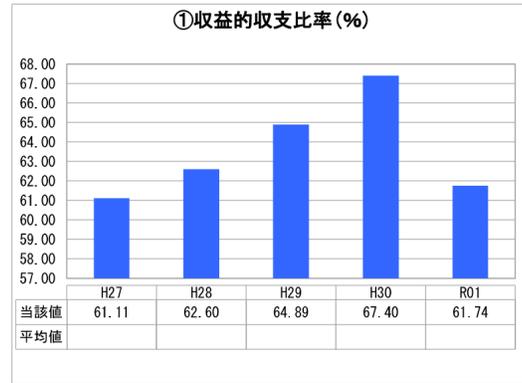
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Ab	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	83.78	82.26	1,595

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
142,529	30.13	4,730.47
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
119,462	12.98	9,203.54

**グラフ凡例**

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和元年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率  
増加傾向でしたが、今年度においては減少しています。減少の主な要因は、打切決算に伴う使用料収入の減少によるものです。今後、健全で安定した下水道事業を運営するため、事業実施に伴う収入（＝使用料収入）を今まで以上に確保する必要があります。

④企業債残高対事業規模比率  
減少傾向でしたが、今年度においては増加しています。増加の主な要因は、打切決算に伴う営業収益の減少によるものです。また、類似団体平均値と比較して高い水準ですが、これは当市が公共下水道整備を積極的に実施してきたことによる企業債残高の増加、及び類似団体よりも低い水準の使用料が要因と考えられます。今後は、改築更新等の費用が増加する見込みのため、債務残高も増加が予測されます。

⑤経費回収率  
前年度に比べ減少しています。減少の主な要因は、打切決算に伴う未収入分使用料があるためです。また、類似団体平均値と比較して低い水準となっており、使用料で回収すべき経費の一部を使用料以外の収入（一般会計繰入金等）で賄っている状況です。今後、効率的な経営を目指し、使用料の段階的な引き上げ等の検討を行ってまいります。

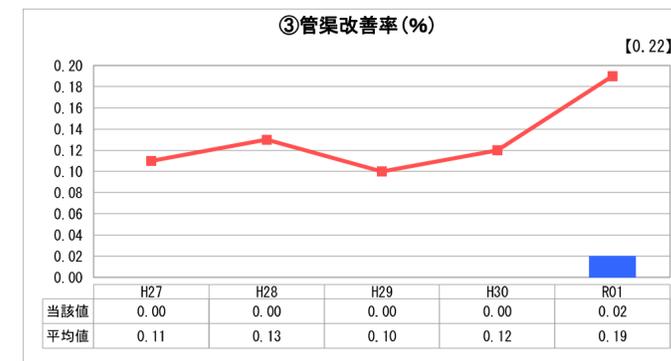
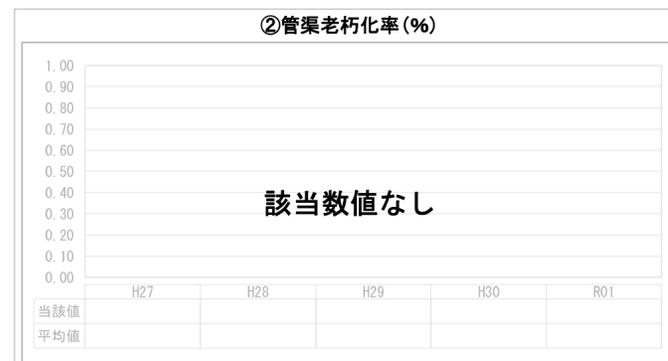
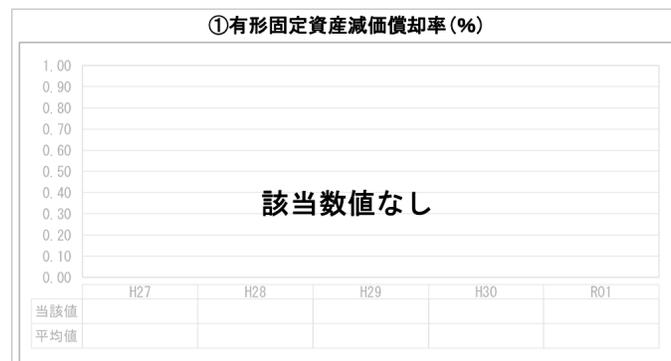
⑥汚水処理原価  
1㎡あたり150円で推移しています。今後、改築更新等の費用が増加する見込みのため、有収水量の増加を目指した水洗化率向上への取組が必要だと考えています。

⑧水洗化率  
類似団体平均値と比較して水洗化率は低い水準となっています。これは当市が下水道整備の途上であることが要因の一つと考えられますが、引き続き未接続世帯への接続促進に努めてまいります。

### 2. 老朽化の状況について

③管渠改善率  
整備から40年が経過している管渠が存在するため、今後、管路内調査、長寿命化対策、耐震化対策、ストックマネジメント計画策定等の老朽化対策に係る費用が増加する見込みです。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

当市は、昭和58年度に公共下水道の供用を開始し、現在も下水道の整備や普及促進に努めています。下水道事業の経営状況につきましては、類似団体と比較して債務残高が多く、経費回収率が低い水準にあり、使用料以外の収入により経費を賄っている状態です。

健全で安定した下水道事業を運営していくため、近隣市町及び県内市町の平均回収率を踏まえ、経費回収率80%という目標値を設定し、令和2年度に使用料改定を行っています。

今後においても、三郷市公共下水道事業中期経営計画の目標である使用料の適正化を図り、使用料収入を今まで以上に確保するため、段階的な引き上げ等の検討を継続して行っていく必要があります。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。